

看護学科の3つのポリシー

卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

趣旨

当学科DPは、本学の学祖・高木兼寛の建学の精神と信念のもと設定した教育理念「資質の高い看護実践者の育成」、および、看護学への社会的要請に基づく教育目標を学士課程において達成するための方針です。

人に深い関心をよせ慈しむ心を基盤に、「主体的学修能力」「課題解決能力」「パートナーシップ」「地域医療連携能力」「倫理的姿勢」「教養に裏付けられた品格を備えた態度」「メンバーシップ・リーダーシップ」「国際的視野」8能力を涵養する科目全129単位（保健師の教育課程選択者は136単位）を修得した者に卒業単位を認め学士の学位を授与します。

慈しむ：大切に（広辞苑）。慈恵医大の「慈」は、慈善病院として創設したところから始まり、学祖が重視した“患者の痛みがわかる、人間味のある・・・すなわち品性（人から）を併せ持つ医療人の育成”にあった。品性の根本は弱者に対する愛である。その後、慈恵医大は、人間性豊かな医療人を輩出して行ったという歴史的な実績をもつ。

品性：人から、人格

品格：物のよしあしの程度、品位、気品

カリキュラム・ルーブリック

用語解

1. 獲得した情報：学修によって得られた知識、技術、自分の行動や態度の変化、他者からの評価等
2. ルーブリック：課題をいくつかの評価指標に分け、その評価指標ごとに評価基準を満たすレベルについて詳細に説明したもの
3. 評価指標：学習活動に応じたより具体的な到達目標
4. 評価基準：どの程度達成できればどの評点を与えられるのかの特徴の記述

5. リフレクション(振り返り)：それまでの経験・成長、達成を思い起こして分析し、次の段階へにむけての自分のあり方（行動等）を計画する思考をいう。省察ともいう。
6. 学修：自ら進んで勉学し、一定の学問や技術を学んで身につけること。
7. ビジョンとゴール：ビジョンとは、自らのこうなりたいという将来像である。ゴールとは、目標である。
8. チーム：何らかの目標達成のために協働するメンバーの集まり。
9. 保健医療福祉システム：地域において、保健、医療ならびに福祉の法・制度にもとづき、各組織・機関が連携しサービスを一体的に提供する仕組み。
10. 地域で暮らす人々：看護の対象である個人， 家族， 特定集団など地域で生活するすべての人々
11. 健康課題：健康とは疾病や障がいの有無、あるいは発達段階の違いにかかわらず、身体的、精神的、および社会的に満たされた状態をいう。健康課題とは、個人、家族、集団または地域社会が健康の回復・維持・増進に向けて解決が必要なことがらとする。
12. 国際看護：地球規模の保健医療に関する課題の解決に向け、国境の概念を越えて、保健医療の向上と格差の是正に取り組む看護活動。
13. 品格：社会的規範意識を持ち、礼節を守りつつ、人を慈しむこと

D P	
D1:主体的学修能力	d1：生涯に渡り研鑽し続けることができるよう、主体的に学修に取り組む力を身につけることができる。
	d2：ビジョン（将来像）とゴール（目標）を見直しながら、成長し続けることができる。
D2：課題解決能力	d1：人々の多様な健康課題を明らかにし、それらの課題を解決するための最善策を見出し、実践・評価し続けることができる。
	d2：人々の多様な健康課題の解決に向けて、科学的・研究的視点から研究成果を解釈し、看護実践に活用できるとともに一連の研究過程を実施できる。

D3 : パートナーシップ	看護の対象となる人々に深い関心と理解を示し、互いに尊重しあい協働して合意した目標に向かって共に歩む関係を創ることができる。
D4 : 地域医療連携能力	人々の生活と健康の質を高めるための目標を多職種と共有し、社会状況の変化に応じた保健医療福祉システムにおける関連機関・多職種と連携・協働する必要性と看護専門職の果たす役割を理解し説明できる。
D5 : 倫理的姿勢	d1 : 自ら自己を内省する力を高め、自己と他者の持つ価値観(考え方・言動)を尊重できる。
	d2 : 看護の対象となる人々の最善の利益を保証するために、その対象の権利を尊重し、対象の立場に立って考え支援する姿勢をもてる。
D6 : 教養に裏付けられた品格を備えた態度	d1 : 社会規範意識を持ち、対象や周囲の状況にあわせた礼節を尽くす。
	d2 : 人を慈しむ心を持ち、豊かな教養と人間性を備える。
D7 : メンバーシップ・リーダーシップ	d1 : チームの目標達成や成長にむけて自己の責任・役割を理解し、メンバーと協働することができる(メンバーシップ)。
	d2 : チームの目標達成や成長にむけてメンバーの意識を高め、集団として成果を上げるためにチームを動かすことができる(リーダーシップ)。
D8 : 国際的視野	d1:他国の人々の健康問題に焦点をあてた看護職の取り組みと方法を理解し、それに基づいてキャリアデザインを描くことができる。
	d2:実用的な英語力を備え、自分の言葉で話し、新しい人間関係を築くためのコミュニケーション能力をもつことができる。

卒業時コンピデンス・コンピデンシー

- (1) 医療人としてのコミュニケーション： 共感的相互理解
 自分と他者の尊厳を大切にできる
 わかりやすく説明できる
 他者を深く理解できる
 適切に合意を形成できる

(2) プロフェッショナリズム： 在るべき姿で為すべき仕事をなす

良き医療人として生涯にわたり自己研鑽を積むことができる

医の倫理に基づいて行動できる

自らが模範となり、後進の成長を助けることができる

患者とその周囲の人に利他的に貢献できる

(3) 全人的医療の実践： 病気を診ずして病人を診よ

人文社会・自然科学・基礎医学・社会医学・臨床医学の知識・技能を統合し活用できる

患者の心情に配慮し、患者にとって最善な医療に貢献できる

身体的・精神的・社会的な健康に配慮できる

健康な生涯をおくるための方略を提案できる

(4) 科学的探究： 創造性豊かな医学者を目指して

問題を見出し、正確な情報を集め、それをもとに論理的・批判的に考察できる

研究について倫理的配慮ができる

成果について発表し、議論できる

健康の回復・維持・増進に寄与するための医学研究の一端を担うことができる

(5) 医療人としての社会参加： 嘆きと悩みのこの世を救う

社会の健全な発展に貢献できる

医療・福祉・介護を包括的に捉えることができる

国際的視野から医療の現状と課題を理解し行動できる

様々な職種の人々の役割を知り、適切に行動できる

以上卒業までに身につけるべき資質と能力とする

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

本学のカリキュラムは、教育理念、教育目標、ディプロマ・ポリシーに基づいて、「医療基礎科目」「教養教育科目」「看護専門基礎科目」「看護専門科目」で構成する。

「医療基礎科目」「教養教育科目」「看護専門基礎科目」のねらいは下記のとおりである。

- 高度化多様化する看護ニーズに対応するための基礎的知識と深い教養を涵養する。
- 変化し続ける社会の中で、自己の人間性を高め質の高い判断力を育成する。

「看護専門科目」は生活援助の基礎、方法、実践、看護の統合と実践で構成され、そのねらいは下記のとおりである。

1. 主体的学修能力育成のために、各学年に4年間一貫の看護総合演習を配置する。
2. 課題解決能力を育成するために、ライフステージや健康レベルに応じた看護ニーズを見極め課題解決する科目を配置する。
3. 看護の対象者とパートナーシップを築き看護を提供する能力育成のための科目を、課題解決能力育成のための科目と連動して配置する。
4. 変化する社会情勢に即した実践に必要な地域医療連携能力を育成するために、段階的に複数の関連科目を配置する。
5. 看護の対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職者としての行動と責任を示す倫理的姿勢を涵養する科目を全学年に配置する。
6. 低学年次に多様な科目から教養を学び、実習の中で段階的に看護専門職者としての品格を備えた態度を涵養できる科目を配置する。
7. 組織の目的達成に向かって活動するためのメンバーシップとリーダーシップのあり方を実践的に修得するために、学内演習科目と実習科目を組み合わせ配置する。
8. 国際的視野を育成するために、外国語によるコミュニケーション能力を育む科目、および国際看護に関連する専門科目を配置する。

東京慈恵会医科大学医学部看護学科 カリキュラム・ツリー2022 (履修学年 1年生; 31期生)

	D 1 主体的学修 能力	D 2 課題解決能力	D 3 パートナーシップ	D 4 地域医療連携 能力	D 5 倫理的姿勢	D 6 教養に裏付けられた 品格を備えた態度	D 7 メンバーシップ・ リーダーシップ	D 8 国際的視野
4 年 生	総合実習							
	成人看護学実習Ⅱ・老年看護学実習Ⅱ・公衆衛生看護学実習(選択)							総合実習(国外実習コース)
	看護総合演習Ⅳ 応用看護論 基礎看護学 生涯キャリアコース	看護研究 治療的コミュニケーション論 セクシュアリティ論 在宅家族看護論 応用看護論 成人看護学 創傷ケア論コース	救急看護論 応用看護論 小児看護学 新生児・乳幼児看護論コース	病院管理学	看護総合演習Ⅳ 看護研究 クリティカルケア論 応用看護論 成人看護学 緩和ケア論コース	日本国憲法	看護管理論	
3 年 生	精神看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 成人看護学実習Ⅰ-1,2 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習							
	看護総合演習Ⅲ	看護過程Ⅲ 周産期看護方法論Ⅱ 急性期看護論 成人看護方法論 老年看護方法論Ⅱ 研究方法論 看護総合演習Ⅲ	小児看護方法論Ⅱ 精神看護方法論Ⅱ リハビリテーションケア論	公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護管理論 在宅看護方法論 災害・健康危機活動論 保健医療福祉行政論				Global Nursing Practice Ⅱ
2 年 生	看護総合演習Ⅱ	生活過程援助実習 看護過程Ⅰ 看護過程Ⅱ 生活過程援助論Ⅱ 精神看護方法論Ⅰ 周産期看護方法論Ⅰ 慢性期看護論 地域看護方法論Ⅱ 生化学 臨床栄養学 臨床心理学 薬理学 微生物学 免疫学 疫学 公衆衛生学 保健統計学 病理学 疾病・治療学Ⅱ 疾病・治療学Ⅲ	生活過程援助実習 看護総合演習Ⅱ 家族看護論 小児看護方法論Ⅰ	地域連携実習 老年看護方法論Ⅰ 在宅看護学概論 地域看護方法論Ⅰ 社会福祉学 医療福祉システム論	生命倫理学 看護と倫理	生活過程援助実習	地域連携実習 メンバーシップ・ リーダーシップ論	Global Health and Nursing Global Nursing Practice Ⅰ 医療英会話 外国語Ⅱ 英語Ⅱ 独語 仏語 中国語
		看護総合演習Ⅰ	フィジカルアセスメント 生活過程援助論Ⅰ 症状マネジメント 成人看護学概論 母性看護学概論 疾病・治療学Ⅰ 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 生物学 化学 物理学 科学哲学 数学 生物学実験 化学実験 物理学実験 情報科学 人間の生活とICT	医療総論演習 看護学概論 小児看護学概論	基礎看護学実習 看護対象論 老年看護学概論 地域看護学概論	日本語表現法 精神看護学概論	基礎看護学実習 看護総合演習Ⅰ	外国語Ⅰ 英語Ⅰ-1 英語Ⅰ-2
1 年 生						基礎看護学実習 看護総合演習Ⅰ 哲学・心理学・教育学・西史・日本史 比較文化学・ヨーロッパ文化・倫理学 欧米文学・文化人類学・音楽 保健体育(講義・実技) 法学・社会学・政治学・経済学 社会保障学・社会政策学・国際関係論 現代社会論・環境社会論 共生社会論・家族社会学		

凡例

- 看護専門科目 ○必修
- 看護専門科目 ●選択
- 教養教育科目 ○必修
- 教養教育科目 ●選択
- 実習科目 1年 2年 3年 4年
- 看護専門基礎科目 ○必修
- 医療基礎科目 ○必修
- 医療基礎科目 ●選択

サービス・ラーニング/ボランティア論

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

本学の建学の精神・教育理念に基づく当学科カリキュラムを履修し、卒業時に求められる能力を達成できる学生として、以下のような人を求めています。

1. 学修をはじめとする様々な活動に主体的に取り組み、成長し続ける素地をもっている人
2. 看護に関心をもち、看護学を学ぶ上で必要となる基礎的な知識と基本的な判断力をもっている人
3. 自己と他者を尊重したコミュニケーションの素地をもっている人
4. 他者の立場に立って考え、想像力をもって行動できる人
5. 他者と協働し、創造的にチャレンジできる人
6. 広く社会への関心をもち、良識をもって行動できる人
7. 多様な文化的背景をもつ人々との交流に関心をもっている人

一次試験における理科・数学の筆記試験では「数理的スキル」、「論理的思考力」、「問題解決能力」から上記2を評価します。国語の筆記試験では、「読解力」、「思考力」、「表現力」から同2、3、4、5を評価します。英語の筆記試験では、「異文化理解」および「英語でのコミュニケーション能力」から同7の一部を評価します。

二次試験では、「面接」「入学願書」「調査書」の内容から同1～7を総合的に評価します。

- 入学するまでに学んできてほしいこと
高等学校等において以下を身につけていることが望まれます。
- 国語：十分な読解力、思考力、表現力
- 数学：数学Ⅰ、数学Aについての十分な知識・技能と数学的思考力
- 外国語：英語の十分な読解力、表現力、会話能力
- 理科：化学・生物・物理についての基礎的知識と科学的な思考力
- 特別活動および課外活動：自主性、豊かな発想、社会への関心、協調的な態度や思いやりの心